

2022 年 6 月 13 日

東京大学教養学部長 殿

東京大学教養学部学生自治会

学部交渉局長 金子健

新型コロナウイルスへの感染が疑われる場合等の代替措置に関する要望書

平素よりお世話になっております。日頃より学生の生活向上に努めていただき、ありがとうございます。

さて、表題の件につきまして、以下の通り要望させていただきます。学生の進路に関わる重大な案件でありますので、十分な説明を頂戴したく存じます。

お忙しいところとは存じますが、ご対応のほど、よろしく申し上げます。

1 要求項目

本会は、教養学部に対し、2022 年度 S セメスター・S2 タームの定期試験においても新型コロナウイルスへの感染が疑われる場合等の代替措置をとるよう要望します。また今後とも同様の措置を継続することを要望します。

2 理由

①感染・濃厚接触は本人の責任ではない

新型コロナウイルス感染症はどんなに注意しても感染しうるものです。それなのに感染や濃厚接触の責任を学生だけに負わせるのは、非人道的な措置と言わざるをえません。正直に感染報告した学生が損をする形になるだけでなく、留年や成績の問題で、奨学金が打ち切られるなどして、路頭に迷う学生もおり、問題は深刻です。

また、感染による不利益が大きいと、感染した人・させた人への風当たりが強くなり、学生同士の差別・対立に発展するおそれがあります。

②無理を押しつけて学生が登校し感染が拡大するおそれがある

試験の欠席は、成績に破壊的な影響を与えます。今後の進路や人生が大きく左右されるものであるがゆえに、感染・濃厚接触していても登校する学生が出てくるはずですが、すると、感染が拡大し、学生の健康が脅かされるほか、せっかく再開した対面授業やサークル活動が中止になりかねません。

しかも、東京大学新型コロナウイルス対策タスクフォースは「感染が疑われる場合は登校を控えてほしい」という声明を出しており、それとも矛盾しています¹。

¹ 【東京大学新型コロナウイルス対策タスクフォースより】「東京大学の学生・教職員のみなさんへ」, <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/news/kyoumu/kyoukashishin0606.pdf>